



ほうぷ♪すてっぷ♪天小

休校が続く中、学年最後の月となってしまいました。依然コロナウィルスの脅威も拡がり不安な日々は続いています。今は各ご家庭で予防対策等を心掛け、皆で協力して乗り切りましょう。

----- ☆各部よりお礼とお知らせ☆ -----

保体部より伊丹市学校保健研究協議大会に参加しました。「小学校・高等学校における食育の取り組み」「生徒が主体的に取り組む防災教育の推進」「中学校体育授業における「なぎなた」の取り組み」の3つの研究にわかれて話を聞いてきました。

執行部より

3月6日に行う予定の第4回理事会は休校のため中止となりました。

☆愛護部より☆

令和元年度第3回愛護補導連絡会の開催について

都市安全企画課の職員の方による、自転車の交通安全教室でした。自転車は、手軽で環境に優しい乗り物である反面、乗り方によっては車と同じくらい危険な乗り物になる可能性がある。車は運転免許証がないと乗れませんが、自転車は誰でも乗れます。しかし、なかなかしっかりとルールを学ぶ機会が自転車には少ないです。

そこで、自転車のマナーとルールを学び、それをしっかり守って自転車に乗ることを大人が子どものお手本となり、まずは家庭で子どもにしっかり伝えることが大事だという話になりました。自転車に乗る上で最大の注意すべきポイントは、自転車は車と同じであるという事を忘れないこと。左側通行を守る事、そしていつでも安全運転で。

DVDや実況もまじえながらとてもためになる時間になりました。





☆人権教育部より☆

第46回 伊丹市人権・同和教育研究大会に出席しました。

この大会の趣旨は人権・同和教育の研究と実践について相互理解を深めることにより“差別を許さない都市「伊丹」の実現”を目指していくことです。

一年間の集大成として各部門から様々な発表がありましたが、例年通りPTA分科会に参加しました。今年度の発表は鈴原小学校と松崎中学校です。

鈴原小学校の発表は日々の家庭における“母”の人権についてです。“母”に着目するのは珍しいと思いました。今日は働くお母さんも増えていますが、果たして家庭内での役割もそれに伴って変化しているのでしょうか。

育児や家事の分担など、抱える負担はどうでしょうか。

うまくできているご家庭、そうでないご家庭様々かと思えます。その中で大切なことは、“母”としての自分自身を大切にすることです。

育児や家事において理想と現実とのギャップに悩んだり、色々と抱えてしまうこともあるかと思えます。しかし“母”に自己肯定感がないと子どもにも自己肯定感を与えることは困難です。

特に育児は果てしない作業なので、一人で全てを抱え込むのは困難です。周囲へ相談したり、時には甘えたり、”母も人間なので協力が必要です。

子ども、家族など自分自身より優先させることが多くあるかと思えますが、その大切な存在のためにも同じくらい自身のことも大切にすることが大事なのだと気づかされました。

松崎中学校の発表は子どもたちをとりまく人間関係と環境について、具体的には「いじめと家庭」についてです。

このテーマは今年度、我々も何度も取り扱ってきました。そしてやはり重要なことは、いじめに悩む子どものSOS（顔色、態度、会話などの様子）を家庭で受信できるか、子ども自身が発信しやすい環境かということです。

これまでの人権教育部としての研修や講演会でも何度も繰り返し同じことを聴いてきました。それだけ重要だということです。





☆保健体育部より☆

第64回伊丹市学校保健研究協議大会に参加しました。

伊丹市学校保健研究協議大会の挨拶において、子どもたちの体力面・食育面の話がありました。班別に2つの研究内容の発表があり、「小学校・高等学校における食育の取り組み」に参加しました。

① 「運動部の生徒にとっての捕食の重要性」

野球部員の協力を得て、具体的に五大栄養素が、自分の体にどのように働くかを日々の実践につなげて考えるというものです。例えば、運動直後に炭水化物(おにぎり)を摂取することで筋肉の増強と疲労の緩和につながることを学び、このことを低予算で簡単な献立を作るというように具現化していました。自分自身の体を自分たち自身が作り、チームで強くなるという意識の高まりが、成長期の子どもたちにとって、将来の健康保持・増進と健康寿命の延伸になると思いました。

② 「1、2年生を対象とした食の指導」

食の指導では、実際に野菜を育てることで、野菜の成長を身をもって知り、食べ物を大切にしたいという気持ちを改めて子どもたちが感じたことを知りました。

「5、6年生の家庭科で行っている伝統食の調理実習について」

伝統食の調理実習では古来より受け継がれた風習や行事に意味を知り、伝承していくことが、日本の食にとって大切なことだと感じ、家庭においても、子どもと一緒に行事を重んじていきたいと思いました。

最後に子どもたちの食生活をめぐる課題は、孤食・偏食・朝食の欠食・野菜の摂取不足と様々です。この問題を解決するために、私たち大人が子どもたちと一緒にどうしたらいいかを考え、行動していくことで、社会全体の実りある豊かな食生活と生活の質を高めることにつながると思いました。

